



## あきらめず努力を続けること②

8月27日(火)の2学期の始業式では、“努力のつぼ”の話をしました。

- ◎ 2学期は、様々な行事があり、自分の力をぐんと伸ばせる学期であること
- ◎ あきらめず努力を続けることは難しいこと
- 目には見えないが、何かを目的とし努力を始めたとき、そこには見えない“つぼ”があり、一つ努力をする度に、一つずつ“つぼ”に玉が入り、“つぼ”が玉でいっぱいになったときに目的が達成されるのだということ
- しかし、その“つぼ”に玉がどれだけたまっているのか分からず、多くの人がいっぱいになるまでにあきらめてしまうのだということ

校長室の前には、始業式のお話の際に使った、“つぼ”（平たい玉の模型が入るように仕掛けがしてある）が掲示されており、

「努力した人は、一つ玉を入れていいよ。（一日、一人一個まで）」

と書いたところ、毎日、翌朝には、用意しておいた玉の模型はすべて“つぼ”の中に入っています。はじめは、玉が“つぼ”に入っていくしかけが面白くてやっているのかと思っていましたが、日々の子供たちの様子を見てみると、それぞれの努力を重ね毎日を過ごしているのだと感じます。

毎日の努力の積み重ね、その一つが音楽発表会への取組です。全学年で取り組む「パプリカ」の合奏唱は、歌ったり、踊ったり、演奏したり、多くの役割をこなす「パプリカ」の合奏唱は難しい曲です。一人一人が地道な努力を重ねないと成り立たない曲だとも言えます。

「今日は、リコーダー少し上手に吹けるようになった！」

「演奏の間の歌、今日は大きな声で歌えた！」

「手を伸ばして大きな動作で踊れた！」

などと、それぞれの課題に応じ、一人一人が努力を積み重ねています。

10月2日(水)の音楽発表会では、多くのお客さんの前でも物おじせず、努力の成果を発揮できるよう、最後の仕上げに取り組んでいきたいと思えます。

御都合のつく方は、ぜひ、子供たちの晴れの姿をご覧においでください。38名の子供たちによる、校訓「勢いのある天方っ子」が見られると信じています。

